

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4 0 7 3 4 0 0 4 6 9		
法人名	社会福祉法人 同朋会		
事業所名	グループホーム国分		
所在地	福岡県太宰府市幸都2丁目8－12 (電 話) 0 9 2 － 9 1 8 － 8 2 8 8		
自己評価作成日	令和 6 年 11 月 12 日	評価結果確定日	令和 7 年 1 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者の方々が、家庭的な雰囲気の中で、自分のペースでゆったりと心地よい生活を送って頂けるように、可能な限り柔軟に対応するように取り組んでいます。コロナ禍を以降、外出活動の機会が、減って来ていますが、気候の良い日は、散歩をしながら季節感を感じて頂けるように配慮しております。当ホームは、終末期ケアは、行っていませんが、同敷地内に介護老人保健施設、同法人には、特別養護老人ホームもあり、利用者の心身状態にあった「療養環境」のご提案を行っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 6 年 12 月 9 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、高速道路や幹線道路が近く、都心へのアクセスもよい。文化遺産があり、歴史を感じる自然環境に恵まれた地域である。同法人の介護老人保健施設や、ケアハウスが同一敷地にあり、建物の3階、4階がグループホーム、1階が居宅介護支援事業所となっている。事業所の理念として掲げている「その人らしい生活」を実現するため、グループホームらしさとは何かを日々考え、毎日の支援に反映させている。スタッフの働きやすさが、職員の定着につながっており、利用者の安心できる生活環境となっている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との交流の中で、その人らしい生活の支援」を事業所理念に掲げ、日々取り組みを行っている。また、スタッフ会議にて情報共有を行い、実践に繋げている。	地域密着型の視点がある事業所独自の理念がある。理念は全体会議の中で取り上げ、職員に理念が浸透され実践に活かせるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の高校生との手紙のやり取りや、併設の老健施設と合同でボランティア団体との交流などを行っている。また、秋祭りでも地域の方々の参加やボランティアとしてのご支援も頂いている。	コロナ禍で地域の行事も自粛していたが、同一敷地内のケアハウスで、手づくりの灯籠による「灯籠祭り」を再開し、屋台が出て地域の住民との交流を再開している。地域の幼稚園や学校とは手紙や折り紙のやり取りをしており、イベントやクリスマス会を開催する等、地域住民と継続して交流が行われている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や福祉祭りへの参加を通して、地域の方への理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、推進会議を開き、入居者のご家族、地域の民生委員や太宰府市役所の方に参加頂いている。ご入居者の日常の様子を報告し、意見交換などを行っている。	運営推進会議は2か月に1度、対面で開催している。利用者、利用者家族、市町村職員、法人関係者が参加している。民生委員5～6名も構成員となり、毎回数名が参加している。事業所からの報告にとどまらず、情報提供や意見をもらっており、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より連絡を取り、制度やサービスに関しての相談を行っている。	市町村へは月に1度、事業所の空床状況を共有している。市から情報提供される行政主催の勉強会に参加したり、福祉まつりの手伝いをする等、協力関係を形成している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設の老健と合同で、身体拘束委員会を月に一度開催し、意見交換を行っている。また、定期的な勉強会を行い、スタッフ同士で日々のケアについて考える機会を設けている。	事業所は、身体拘束を行わない方針であり、身体拘束適正化検討委員会が、法人全体で組織され、委員会を月に1度開催している。玄関や居室の窓も、日中は鍵が開放されている。外に出られる利用者には、職員が付き添い散歩している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	併設老健と合同で行う委員会や勉強会への参加及び、スタッフの意識調査を定期的に行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「日常生活自立支援事業」を活用されている方もおり、社会福祉協議会との連携や情報共有を行っている。	権利擁護に関する日常生活自立支援事業や、成年後見制度についてのパンフレットなどの資料が準備されていない。	権利擁護に関する制度について、利用者や家族に、パンフレットなどの資料を用いてわかりやすく説明する機会を持つこと、また利用者、家族から相談を受けた職員が、必要に応じて相談機関へと繋ぐための制度の基礎的な知識を習得する学習の機会を持つことを期待したい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書にて説明を行い、ご質問に対してはご理解頂ける様、丁寧な対応に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会や病院受診の際に近況報告を兼ねて、会話の時間を設け、ご意見やご要望を伺えるよう努めている。	家族の意見や要望等を聞き、運営に反映している。利用者から、職員の名前がわからないといった意見には、名札をつけ名前がわかるようにした。家族から、面会についての意見があり、感染の状況に応じて緩和するなど対応している。出された意見や要望等は、話し合い反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者による職員との面談を定期的におこない、職員の意見や提案の反映に繋げている。	管理者やユニットの責任者は、年に2回個別面談の機会を設けている。それ以外でも日常的に意見や提案を聞くようにしている。行事や環境整備は、担当制となっており、職員が主体的に運営に関わり、積極的に取り組んでいる。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との面談を行った際に、改善の必要が認められた場合は、早急に改善へ向けての調整を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢による排除は行っていない。 個々のキャリアを活かし、自信をもって業務にあたってもらえる様、努めている。	定年は設定しているが、希望があれば働くことができる。常勤から週に3日勤務に変更する等、働き方を調整することができる。職員の資格取得について、事業所が対象とする資格は、研修参加のためのシフト調整をおこない、出勤同様の扱いとしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全体会議や面談を通して、ご入居者の権利について考える機会を設けている。	今年度は、人権に関する外部研修に職員が参加しているが、参加した職員による伝達研修が実施されていなかった。全体会議の中で、利用者に対しての尊厳や、倫理について、話し合いを行っている。	外部の研修に参加した職員による伝達研修や、オンライン研修を活用する等して、職員に定期的な人権教育の機会をつくり、実施することを期待したい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や、外部研修に参加している。また、新入時には教育担当を設け、互いのスキル向上に努めている		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福祉祭りへの参加や、同法人内でグループホームは3施設あり、交流を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃からコミュニケーションを図り、ご本人の困っている事や不安な事、ご要望を傾聴し、信頼関係を築くように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される際、ご家族の意見や不安と思われる事を十分に伺い、今後のサポートに繋げる努力を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族と面談をし、ニーズを引き出す努力を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの個性を大切に考え、出来ない事はサポートをし、信頼関係作りに努力している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人らしく生活出来る様に、ご家族へ近況報告を行い、ご家族の協力のもとサポート出来るよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人との交流を積極的に受け入れ、面会や外出で社会や人との関係継続が出来るように支援している。	事業所の敷地内には、法人が運営する他事業所から利用へつながった利用者も多いため、知人が訪ねてくる等、友人関係を継続するための支援を行っている。馴染みの商店へ、職員と一緒に買い物に行く等外出の支援も行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士のコミュニケーションに努め、見守り支え合って生活出来るように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて状況確認を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いや希望を傾聴し、本人本位で検討している。	職員は日々、利用者のわずかな変化にも気付くよう努めている。また、積極的に利用者に声かけを行い、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者には、表情から思いを汲み取ったり、家族から話を聞いたりしている。利用者の好きな食べ物を聞いて献立に加えたり、編み物等、利用者がやりたい事を継続できるよう支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	身近な方から、今までの生活歴や暮らし方の情報を収集し、安心して自分らしい生活が送れるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントやモニタリング、評価等定期的に行い、現状把握や情報共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の生活歴を基に、カンファレンスや担当者会議を行い、ご家族やご本人様の希望を取り入れたケアプランの作成に努めている。	日々のかかわりの中で、利用者や家族の思いや意見を把握し、介護計画に反映させている。ケアマネジャーが、事前に各職員から意見を取りまとめ、3か月に1回、職員全員で情報共有した上で介護計画を作成している。見直しの結果については、その都度家族へ説明している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた記録を行い、特変等は様子観察し、個別記録に記載、情報共有を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今のご利用者にも有効か否かを重視しながら、柔軟に考え、サービス提供を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホーム近隣での、行事に参加し楽しみをもって生活していただける様支援している。又、訪問理美容を活用し、リフレッシュできる機会を設けている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期薬終了時や、ご本人の体調不良時は、ご家族、施設職員で協力し、かかりつけ医の受診をおこなっている。ご家族が対応できない場合は、職員対応にて受診を行っている。	希望する医療機関への受診を支援している。事業所の協力医療機関以外の受診については家族に対応をお願いしているが、家族の対応が困難な場合は職員が対応している。受診結果は、家族と職員とで速やかに情報共有を行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、訪問看護を利用されている方はおらず、ご利用者の、変化や気づきはかかりつけ医の看護師や併設の施設の看護師長に相談出来る体制をとっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より、かかりつけ病院との連携をとり合って情報交換を行っている。主治医からの、紹介で病院へ入院された場合などは、ソーシャルワーカーとの情報交換を随時行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の施設としての方針は設けているが、主治医の意見も含めて対応を行っている。施設内で、都度話し合いを行いながら、併設施設とも連携を図っている。	重度化や終末期対応に関する方針を明文化しており、入居時に利用者や家族に説明している。重度化した場合のあり方について、利用者や家族等の意向を踏まえ、早い段階から話し合いを行っている。看取りは行っていないが、事業所が対応しうる最大限の支援方法を検討している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中と夜間の緊急搬送マニュアルを作成しており、ご利用者の急変時の対応を確認している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の3施設合同の避難訓練を行い、災害時の避難経路を確認し、備蓄品の見直しを行っている。又、話し合いを重ねながら、今後地域の方々の避難訓練への参加を呼びかけていく。	火災を想定した避難訓練は、消防署の協力を得て、敷地内にある同法人の施設と合同で、昼間想定1回、夜間想定1回の年2回実施している。非常用食料、飲料水、備品は事業所内及び同法人の併設施設に準備している。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけている。	
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人のADL状況や性格等を踏まえ、個々に適した声掛けやケア方法を見出し個別のケアを行うことで、個人を尊重し尊厳を守るケアに努めている。	同法人の施設合同で接遇委員会を設置し、プライバシー保護に関する勉強会や職員の意識点検等を定期的に行っている。職員は常に利用者の誇りやプライバシーに配慮し、さりげない声かけや対応を心がけている。トイレのドアは必ず閉める等している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のあらゆる場面での選択肢（次の行動予定や衣類の希望等）について、極力ご本人に希望を伺ってから希望に沿う形になるよう支援している。希望表出が難しい方へも、必要に応じクローズドクエスチョンや指差し確認で伺う等の工夫を行い、自己決定出来るよう働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設のスケジュールや職員都合を優先せず、入居者一人一人の好きな時間の過ごし方に合わせ、個々のペースを尊重し柔軟な対応を行うよう支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際にご本人に衣類の好みを伺ったり、季節ごとの気温に合った衣類への衣替えを行うことで、快適でその方の好みにあった服装で身だしなみを整えられるよう支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	安全に配慮し可能な方は出来る範囲で食器の下膳をしていただいている。昼食は栄養バランスや季節感を考慮したメニューを立て、フロア内で作ることで香りや音やメニューの話題で食欲が沸き食事が楽しくなるよう促している。	朝食と夕食は同法人の併設施設で調理し、昼食のみ事業所内で調理している。職員は利用者の希望を聞いて献立を決めている。月1回行事食として、そうめん流しやバイキング、お好み焼きパーティー等を行い、楽しめるよう工夫している。利用者は、玉葱の皮むき、煮干しの頭取り、ゆで卵の皮むき、食器ふき等を職員と一緒に楽しみながら行っており、食事の時間が大切な活動のひとつとなっている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記入し、体重の増減に気を付けながら栄養管理を行っている。水分の提供時間を設け、こまめに水分補給できるよう努めている。提供時間以外にも自由に水分摂取できるようにしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア（うがい）等を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、その方の状態に応じた排泄支援・排便コントロールを行っている。失禁があった時は、清拭や洗浄を行い清潔を保てるよう努めている。	職員は利用者の排泄のパターンやサインを把握して、トイレ誘導を行っている。職員は、トイレで排泄できるよう支援しており、夜間もトイレ介助を行っている。トイレで排泄する回数が増えたことで、紙パンツやパットで済むようになったりする等、本人の状況に合わせた支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方に合った食事形態で栄養を吸収しやすいように提供を行っている。毎日、運動を行い便秘予防に努めている。自然な排便が困難な場合には、主治医への相談も行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人の意思を確認しながら週2～3回入浴できるよう努めている。ご本人の気分やタイミングに合わせた対応を心掛け、翌日に持ち越す等の対応も行っている。	一日おきの入浴を基本としているが、毎日入浴できるよう準備している。職員は利用者の入浴状況を把握し、利用者一人ひとりの希望を踏まえ、適切なタイミングで入浴を促している。入浴を拒む利用者については、職員間で情報共有しながら様々な声かけや対応をしている。また、入浴を楽しめるよう音楽を流したり入浴剤を入れたりしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の体調に合わせ、ご希望に応じて休息の時間を設けている。レクリエーション等で活動量を増やし、昼夜逆転にならないよう支援している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬は毎回、薬事書を確認し個々のケースにセットしている。薬事書は、全職員が確認できるようカルテに保管。服薬介助時は、ダブルチェックを行い、誤薬防止に努めている。服薬による症状があった際は、主治医へ連絡を行い指示を仰いでいる。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考に、お得意な事や、お好きな事への声掛けを行い、気分転換を図っていただく。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得ながら、外出や外食等の支援を行っている。	コロナ禍以降、散歩以外の外出は控えていたが、今年度から徐々に外出を再開している。利用者の希望を聞いて、職員と一緒にショッピングモールに買い物に出かけたり、家族の支援で外食に出かけたりする等、外出を楽しめるよう支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設では、個々のお小遣いを預かっており、必要な物を購入したり、要望があれば一緒にお買い物へ出かけている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	葉書や手紙が届いたら、ご本人へお渡ししている。個人あてに電話があった際は、おつなぎしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じて頂けるようにフロア内の飾り付けを工夫している。こまめな喚起を行い、照明などの調整をしたり環境整備にも努めている。	共用の空間は明るく広々としており、歩行器や車いすでの移動もしやすい。掃除も行き届いている。居間及び食堂の壁には職員による季節感あふれる飾り付けがなされている。テレビ、ソファ、テーブル、椅子は転倒防止にも配慮し、ゆったりと過ごせるように配置されている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームでは、ソファ席とベンチ席を設けており、好きな席で過ごして頂けるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご家族様が使い慣れた物を持参され、写真などを飾り、ご本人が居心地よく過ごせるようにしている。	居室にはカーペットが敷かれており、室内は広く、ベッド、クローゼット、洗面台、筆筒、エアコンが完備されている。テレビ、ミニ筆筒、仏壇や遺影等、利用者の馴染みの物が持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地のよさに配慮している。壁には利用者が作った壁飾り、家族からのメッセージや写真、職員からの誕生祝いの色紙等が飾られ、温かい雰囲気となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の場所が分かるように、順路には張り紙を行い、居室扉にはお名前を提示している。施設内で迷われることなく、自立した生活が送れるよう支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
			○	③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍を経た今も、地域との交流は出来ていないが、その人らしい生活の支援を理念に掲げ、日々取り組みを行っている。スタッフ会議にて、情報共有を行い実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍を経た今も、直接交流出来ていない状況です。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は取り組みを行っていたが、コロナ禍を経た今も、出来ていない状況です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的「2ヶ月に1回」に開催している。近況を報告し、ご出席頂いてる外部の方々と意見交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にご出席頂き、意見交換を行っている。また、当施設にて制度的な不明点などがある場合には、随時連絡を取り指示を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設の老健と合同で身体拘束適正化委員会を月1回開催し、意見交換を行い、半年に1回全スタッフを対象に身体拘束に関する意識調査アンケートを行っている。玄関は防犯の為、夜間のみ施錠している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	併設の老健と合同で委員会や勉強会への参加。また、コロナ感染状況等にて開催出来ない場合には、書面にて回覧を行っている。身体拘束同様、半年に1回全スタッフへ虐待に関する意識調査アンケートを行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在も「日常生活自立支援事業」を活用されているご入居者がおり、社会福祉協議会と連携している。また、必要に応じた相談や情報交換の中で学ぶ機会を持ち、いつでも支援出来る体制は整っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書にて説明を行い、ご質問に対しては「例え」を用いてご理解・ご納得頂けるよう努めている。料金改定時も文章にて送付、理解・ご納得頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会時、又は電話にて近況報告をしご意見や要望を伺えるよう努めている。1Fのエレベーター前に匿名でもご記入いただけるご意見箱を設置し、ご意見が頂きやすい環境作りを行っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談を定期及び随時行われており、職員からの提案があれば、会議などで話し合い反映している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談時に各職員の近況を確認し、改善を要すると判断した場合には、早急に改善に向けて調整を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢による排除は行っていない。 個々のキャリアや個性を活かし、能力を発揮して業務にあたってもらえるように努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全体会議にて、ご入居者の権利について考える機会を設けている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍を経た今も、研修などの参加は出来ていない。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍を経た今も、同業者との交流の場を持つことが出来ていない。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前の住環境や生活歴を基に、ご本人・ご家族から入所時に情報収集に努めている。 信頼関係を築き、ご本人が安心出来るよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に、アセスメントの段階で、ご家族の心配事などを聞き取り、ご家族へのサポートも含めたケアを行っている。また、日頃からご家族と連絡を取り、良好な関係作りに努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の話を丁寧に聴き、必要としている支援内容の見極めを行っている。 また、当ホームのご利用に繋がらなくても、その方にあった支援のアドバイスをを行い、他事業所とも連携を図りながら支援に取り組んでいる。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般をご利用者と共に行い、これまで培ってこられたことを教えて頂きながら、共感共生に基づいて生活が出来るよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と情報を共有し、ご利用者の状態に変化があった場合には、報告を蜜に行い、その方にあった支援内容を一緒に考えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍を経た今も、面会に制限はあるが、行動制限が緩和され、外出・行事などを通じて関係維持に努めていく。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活を通じて関わり合いを持ち、ご利用者の状態・状況に応じて支え合っているような支援に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方に、連絡や時には面会をし、関係の継続に努めている。その後の経過について相談や支援の関係維持に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴をを基に、ご本人の希望・何が出来 るかを考え、その人らしい暮らしが出来 るよう支援している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これ までのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつ、ご本人・ご家 族から情報収集に努めている。以前に関わ りのあった介護事業所の担当者から情報 を得て、経過等の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現 状の把握に努めている	定期的にあセスメント・モニタリング・評 価を行いながら、ご利用者の現状把握、情 報共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につい て、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見 やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成してい る	3ヶ月に1回のモニタリングで介護計画を見 直し、現状・生活歴を基にケアカンファレ ンスや担当者会議を行い、ご本人・ご家族 の希望を反映したケアプラン作成を行って いる。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録 に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見 直しに活かしている	ケアプランに基づいたサービスの記録・記 入を行い気付いたことがあれば書き足して 次のケアプランに反映している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応し て、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの 多機能化に取り組んでいる	ご入居者様の状況に合わせてサービスを提 供している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流はコロナ禍以前に比べ減っているため今後は増やしていきたい。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族や職員付き添いにて対応している。受診が困難な方には契約医療機関と連携し、月2回の訪問診療を行っている。ご入居者様の急変があれば直ちに相談できる関係を築いている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師の配置がないが併設の看護師（老健）に相談を行いアドバイスを受けることはある。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃からかかりつけ病院のソーシャルワーカーと連絡を取り合いご入居者様が安心して治療を受けられるように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃からご家族にご入居者様の変化等をお伝えし主治医の意見も含めて対応している。重度化に向けた方針は事業所でも定めており、法人内の各施設相談部会を開催し特養や老健との連携も強い。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急搬送マニュアルを作成している。防災訓練時に緊急連絡網の確認を行っている。全職員が定期的に研修を通じて緊急時に備えている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回行っている。非常階段を利用できない入居者様が多数いらっしゃるのでベランダへの避難誘導絵を行っている。近隣住民との話し合いは行っていない。1階倉庫に法人全体の備蓄品を保管している。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に行われている接遇委員会の参加を通じて、全職員の共通認識として丁寧な対応やプライバシーの配慮を心がけている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションで信頼関係を築き、ご本人様の意思を確認しながら支援を行っている。表出が難しいご入居者様には理解しやすい形での確認の仕方を工夫している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、日々の体調を考慮し個人の意思に寄り添った対応を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力もあり季節に合わせたふくそうができるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食の献立はリクエストや旬の食材を使って提供している。野菜の皮むき・片付けのお手伝いをお願いし、役割を担いながら楽しんで頂けるように支援している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取記入表に記入を行い体重の増減に気を付けながら栄養管理を行っている。水分提供時間を設けているがその他でもその日の天気や気温でこまめに水分補給をできるように努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア（うがい）等を実施し、口腔内の清潔保持に努めている。又、介護が必要な方にはその方に合わせたケアを行っている。歯科往診を受けられている方もいる。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄チェック表を使用し、その方の状態に合わせて排泄支援・排便コントロールを行っている。失禁があった場合は清拭や洗浄等で清潔保持を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養を吸収しやすいようにその方に応じた食事形態での提供を行っている。又、日課として運動を取り入れ必要に応じて主治医に相談し下剤の指示にて対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人様の意思を確認しながら週～3回入浴を提供している。ご本人様のご気分やタイミングに合わせて提供やシャワー浴の提供、翌日への変更を検討し支援を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状態に応じて休息の時間を設けている。夜間は安心して休めるように空調や衣類の調整を行っている。日中は余暇活動参加を勧め昼夜逆転しないように取り組んでいる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないように声に出してダブルチェックを実施しながら服薬支援を行っている。日頃からご入居者様の様子を見ながら主治医に状態報告を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好や生活歴を考慮し支援を行っている。季節のイベントを実施し皆さんで楽しく過ごせる時間を作っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日にはご本人様と数名で夕食を実施し喜んで頂いている。ご家族との外出も事前に連絡を頂き行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と外出した際にご入居者様の状態や要望に沿ってお支払いの援助を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛けて頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備担当を中心に安全で清潔な空間を提供できるように努めている。又、季節に合わせて装飾を変えご入居者様に喜んで頂けるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席やリビングなど思い思いの場所でくつろげる様に心地のいい居場所づくりに取り組んでいる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時にご本人様の思い出の品や使い慣れた物等をご持参頂き安心して生活できるように工夫している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内に居室やトイレ、浴室への案内板を掲示して迷われないように工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない